

第472回 2/4 (火) 「スタジオ ソララド」

出演 代表 坂本健一さん

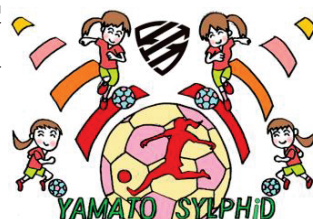
坂本さんは20年以上映像ディレクターとして、企業のVP（ビデオパッケージ）やニュース番組の制作、全国の地方創生事例の取材に携わってきました。昨年2024年1月に、大和市を拠点とするプロダクションを設立し、活動拠点をペテルギウス館内 起業家支援スペース Rigel に置いています。主な活動は映像制作で、全国の地方創生事例のビデオ制作やイベントのライブ配信などを手がけています。昨年、神奈川県の大和市の起業家支援プログラム「HATSU」の採択を受け、県の支援で地域コミュニティ活性化の新しい事業モデルを構想して「自治会DX」の支援にも取り組んでいます。ペテルギウスまつりでは、バーチャルスタジオやVTuber体験コーナーを出展しました。今後も多世代交流につながるカードゲーム大会などの活動を増やしていければと思っています。映像制作やライブ配信（オンラインミーティングなど）に興味のある方、教育面での「魅力化」「特色化」「地域社会連携」「探求学習」といったキーワードにご興味がある教育関係の方からのご連絡もお待ちしております。

☆3月の出演 第474回 3/4 スクール ありんこ 第475回 3/18 地域を明るくするリハビリテーション専門職の会 大和 FMやまと 77.7MHz 第1.3.5(火) 生放送 9:00~9:30 同日再放送 15:00~15:30

第473回 2/18 (火)

「NPO 法人大和シルフィードスポーツクラブ」

出演 フロントスタッフ 運営 赤井歩さん 広報 川中真優さん
中・高生が女子サッカーを続けられる場所を作ろうと発足しました。「シルフィード」は“妖精”という意味です。その後大きく発展をしながら、U-15 チーム結成での元日本女子代表の川澄奈穂美選手や上尾野辺めぐみ選手たちもこのチームから輩出された尊敬する先輩方です。2014年に将来の“なでしこリーグ”参入を見据え、社会人チームを設立。翌年の2015年にはチャレンジリーグに参入しました。神奈川県大和市を活動拠点として、2015年に大和市のホームタウンチームに認定され今年で10年目となります。「スポーツを通して地域を元気にする」ことを目標に活動しています。フロントスタッフの立場から選手たちへは「より力を発揮できるように！」支援して下さるファンの皆さんへは「より楽しんでもらう！」などの意気込みを熱く語られました。大和市をチームカラーのオレンジに染めようと“オレンジ色のユニフォーム”が元気に走りまわる…。～ビタミンオレンジ活動～を展開していきます♪ ホーム開催は 3/23 (日) 13時！「大和なでしこスタジアム」にてお会いしましょう！



TSUBASA's トーク 第40回 走るときに考えていること

京都マラソンを完走したが、どうもマラソンとエッセイは相性が悪いと思う。だって、よくある話じゃないか。腰を痛めたり入院生活をしてた人が、ちょっと孤独なリハビリ生活に耐えて、最後にフルマラソンを完走し「信じて続ければ、いつか報われると心から思えた」なんて、いかにも王道。

よく人生はマラソンに例えられる。一步ずつの積み重ねがゴールにつながり、何事も長い目でみて取り組むべし、ということらしい。「男ってだめねえ」と走りながら考えていました。



京都マラソンは、嵐山付近の陸上競技場がスタート地点で、そこから一条通、仁和寺、加茂川と進み、最後に鴨川沿いを祇園方面に南下してフィニッシュになる。そのおおよその中間にあたる25キロ地点では、北山通りという一直線の街道を大勢で往復する。僕も大勢の中を走り、いろいろなランナーを見たのだが、特に驚いたのは走りながらナンパをする男性ランナーだった。男性は僕の5メートル先で白い帽子、淡いピンクのTシャツを着て走る女性に話しかけている。「今日の夕方から、僕のサークルの人で飲み会をやるのでよかったらどうですか？女の子も何人かいるんで。女の子が何人かいたら何なのか、と思いつつ女性をみると生返事で「はい、そうなんですねえ」と答えている。記録を目指すなら振り切ってしまう方がいいのに。ただ25キロ地点でさえ口説き続けられる男性の執着心と体力も大した



ものだ。使い道を工夫すれば素敵な心身だと思う。走っても2人との差が縮まらず、非常に悔しかった。

沿道の応援にもさまざまな人がいる。「足が痛いのは気のせい」と書かれたボードを持っている人、サックスを演奏するおじさまや、お菓子を渡してくれる子供たちも多い。ハイタッチしてくれるご婦人たちにも元気づけられた。

後にマッサージしてくれた地元の治療師の方から聞いたのだが、京都は高校駅伝の全国大会も有名で沿道が盛り上がるので、地元の人たちは「応援慣れ」しているらしい。

レース中、川沿いの応援に一言ずつ「ありがとうございます」と手を振って応える洗練されたランナーもいた。普段の僕ならその人に「すごいですね」と話しかける図々しさがあるものだが、余計なことをして走り切れなかったら参加費がムダになると思い、その時はあきらめた。京都マラソンの参加費は高く、1万7500円。加えて新幹線が片道1万2000円、あとは宿泊2泊分と、カフェでの食事と。走りながら勘定した。走り切るモチベーションは、このケチな精神にあったと思った。

やっぱりマラソンは人の生きざまを映す、王道のスポーツかもしれない。



サポーター 尾畑 翼

あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決！

あの手 この手

あの手この手のマークの間のSは solution (解決) のSです。

第212号 2025年 3月10日 大和市民活動センター〔拠点やまと〕発行

3月号
2025

ペテルギウス玄関
3月5日の生け花



表紙絵は「やまと国際フレンドクラブ(IFC)主催 やまと国際アートフェスタ」の入賞作品を 毎号掲載しています

今年度(第17回)のテーマ:
守りたい、平和な世界

バラード賞受賞
バトウル ノミン さん (モンゴル)
上和田小学校5年生

作品タイトル: 世界のつながり

ひとことメッセージ

肌の色がちがうからという理由で、差別をしないで、みんなが仲良く暮らしていけるように願いを込めて描きました。

☆「やまと国際アートフェスタ」は、「やまと国際フレンドクラブ」(IFC) *の主催で毎年開催されています。

*「IFC」は、草の根の国際交流、外国人支援を行っている、「ともにくらすまち大和」を考えるボランティアグループです。

第111回 共育セミナー

日時 2025年 4月 12日 (土) 14~16時
場所 ペテルギウス2階 (大和市民活動センター会議室2)

「最高の幸せ、それは「平和」であること！
この幸せを ちょっと考えてみませんか

NHK が、100 歳の方 100 人に行った、「人生で最もうれしかったことは？」のアンケート調査で、最も多かった回答は「戦争が終わって平和になったこと」でした。また、高校生の間でも、太平洋戦争当時の様子を調べながら、平和を考える活動が広がっています。このセミナーで「平和」の大切さについて考えてみませんか！



ゲストスピーカー

大和市民平和都市推進事業

実行委員会会長 永井 圭子さん

若い世代への戦争の記憶をつなげる活動に積極的に取り組まれています。大和市の平和都市事業の推進の舵取り役として、長く活躍されている。

実行委員会委員 平原 久子さん

大和市民平和映画会において、学童疎開で撃沈された「対馬丸」の上映を提案し開催したことも。東日本大震災時には「ちゃんちゃんこ」100枚を縫い、寄付。平和都市推進事業に長年かかわっている。

大和市民平和都市推進事業実行委員会では、大和市民平和都市宣言の趣旨である「人類の永遠の平和を希求し、真の恒久平和を実現すること」を目指し、平和に対する意識啓発を図るため、さまざまな平和事業を展開しています。



大和市民活動センターは「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」に基づいて設置されています。

「あの手 この手」 第212号 発行日：2025年3月10日

発行：大和市民活動センター 拠点やまと

大和市民活動センター <開館日 月~土 9:00~18:00>
<休館日 12月29日~1月3日・毎月第3月曜日>
〒242-0018 大和市深見西 1-2-17

TEL:046-260-2586 FAX:046-205-5788
e-mail:yamato@ar.wakwak.com
http://www.kyodounokyoten.com/

市民活動センターの21年目の活動がスタート スタッフの想いを乗せて

大和市民活動 20 周年記念交流会(しゃべり場)開催！

去る2月16日(日)に、市民活動センターの1階市民交流スペースにおいて、「わたしの居場所、こども・わかものまんなか社会ってなに？」をゲストスピーカーに、「認定特定非営利活動法人NPO サポートちがさき」代表理事益永律子さん、「特定非営利活動法人アクションポート横浜」代表理事高城芳之さん、特定非営利活動法人パノラマ理事長石井正宏さんをお招きして、それぞれの活動のエッセンスをお話し頂きました。集まった45名でその体験、思いを共有する時間となりました。今号では、その日の模様を写真とスタッフのコメントで振り返るとともに、21年目も継続して事業を展開していくにあたり、「活動の拠点」として果たすべき使命を表明する場としたいと思います。



(アクションポート横浜:高城さんと望月)



(サポートちがさき益永さん)

益永さんのお話を聞き、いつの時代にも子どもたちは元気で可能性を持っていることを確信しましたが、石井さんのお話では15～19歳の大事な時期に支援が届いていない。『あってもなくてもよいものがない』『信頼貯金を溜める』とも。高城さんは、学生は『思い』がベースで『この事業を継続して欲しい』ということではつながらない。まずは関係性作りからと話されたが、今は作りにくいかも知れないがこれはどの時代でも同じであろう。若者に実力を発揮してもらうために、私にできることはあるか？それは何もない。しかし、応援をしていることは伝えたいと思った有意義な会でした。 スタッフ 櫻井美紀子



昨年2月に開催した共育セミナー「こども・わかもの参画 地域活動拠点に求められるもの」で、大和市民活動センターは『こども・わかもの居場所』としてどのように役割を果たしていくべきか考え、6月より2回「市民交流カフェ」をオープンしました。棘が刺さったから抜いてほしい、ここには夜の9時までいるんだよ、とか、うちのお兄ちゃんなんだけど、など、日常のちょっとしたできごとや悩みを話し始めています。途中で習い事に行き、また戻ってくるなど、カフェのない時も市民交流スペースがこどもたちの居場所となっていることを実感しています。今回の(しゃべり場)を企画するに当たり、こどもたちにも招待状を配りました。何人参加してくれるか心配でしたが、ワークショップに参加してくれたこどもたちやカフェで覚えた皿回しを披露した子がいました。詩吟を吟じた高校生もいました。こどもたちが自分で考え動き、未来を創る自分のチカラに気づくように(ちがさき・さむかわ こどもファンド)、私の「やりたい」を翻訳する(アクションポート横浜)。そして、すべての人をフレームイン！できる社会を創る(パノラマ)。ゲストたちのメッセージを胸に、これからも家族や先生以外の大人として、こどもたちと関わっていきたくて考えています。 スタッフ 関根孝子



(パノラマ石井さん。アコギで「やまひが応援歌」を唄う)

こどもワークショップの内容を報告する高校生。やまと起業家支援スペースRigelで活動する人も加わり、市民交流スペースらしい、開放的で自由な空間ではじめての事業になりました

多くの資料・データをもとに20年記念誌を作りました。集計しながら驚きの連続です。来館者は夜間も含めたら約大和市の人口20数万に達するでしょうか… 会議室使用は1,500件、印刷機は自分達の業務使用も含めると10,000回の稼働です。共育セミナーは100回を超え、FMやまとは500回に近づく記録が並びます。参加者、関係者そして調整役で苦労された担当者の顔が浮かんできます。皆さんのご苦労を振り返って、講演者の名前、タイトルを見たら当時の様子が頭に浮かんでくるのでは？と長い一覧表を作って載せてみました。 スタッフの長♪ 望月則男



ラッキーさんと市民交流カフェで、いとも簡単に皿回しをマスターした小学生男子



当日、開始直後の「自己紹介ゲーム」みなさん、気持ちよく参加してくれました



自由気ままにイラストを描き続ける、われらがボスの「もっちゃん」
今日も、あの手この手のイラスト、FMやまとの出演者を描き続けます

やまとっこ☆みつけた～に出演団体のイラスト展に
寄せれた応援メッセージ ↓

★20周年おめでとうございます。市民活動センター最高です ☆おもしろそー行ってみたい(多分) ★望月さんが描かれたイラスト、素晴らしい！私たちのサークルのマスコットも描いていただきました ★がんばっているすがたや楽しんでいる絵があってすてきだと思いました。私が好きな絵はひまわりの絵です(20周年おめでとう！) ★20周年おめでとう♪ FMやまとに出演される団体の魅力を伝える素敵な漫画、ありがとうございます。いつも温かく、ユーモアあふれるタッチで描かれる物語を楽しみにしています！ ★500回に向けて多くの方々に届きますように ★継続は力なり！20周年ですか、スゴい ★絵が上手でいいと思います ★いろんな日にいろいろなものがかいてあり、すごいと思います!! ★え かわいいし、え うまいし、すごすぎんだけど ★イラストが分かり易くて良い！20周年おめでとうございます ★すごい!! ★わーお ★可愛い きれい ★すご ★これはすごい 本にしてみんなでみましょう ★すげー!! ヤバ!! ★絵うま! ★びっくりしました ★もう20周年なのがびっくりしました ★すごすごすごすごすご FMやまと！



「いま、わたしが関心があること、こうなったらいいなとおもうこと」ワークショップ。写真にはいないけど、小学校6年男子2人も参加してくれました。話題は、周囲でいじめにあっている子の話に。

2月16日は大和市民活動センター設立20周年の重みを知る一日になりました。設立当時のメンバーや市職員の方にもお越しいただき、ご都合がつかなかったけれど記念誌にメッセージを寄稿してくださった方々、これまでにお世話になった諸先輩など、多くの方々の支えがあり、センターが20周年を迎えられたことに感謝しています。センターのモットーである「共育(ともいく)」はその思想と理念はもとより、言葉としても素晴らしいものと誇りに思っていますが、「しゃべり場」ではパネリストの方々のお話と参加者との質問の応答を聞きながら「共に育つ」というフレーズが何度も浮かび、あらためてその言葉の意味を噛みしめました。それぞれ活動の内容は違っても、想いは共通していると感じる場面もあり、今後は団体同士が繋がることで新しい展開への期待が高まる思いがしました。また、今回は短大生と高校生にボランティアとして参加してもらい“小学生のしゃべり場”のお姉さん、お兄さん役、会場の設営役として参加しました。若い世代の感性に触れることで、私たちの視野が広がる可能性も大いに感じています。市民活動の中間支援組織としてセンターが今後どのように支援できるか”あの手この手“で知恵を持ち寄り考えていきたいと思っています。 スタッフ 辺見 弥生



スタートから参加者のみなさんが誕生日順に並んで、カードゲームで自己紹介を行うなど、堅苦しい記念式典とは全く違って、市民活動センターらしくて面白いと思わず微笑んでしまいました。子どもたちのイジメ問題や、NPO法人パノラマの大和市東高校の生徒への朝食の提供活動など、大変興味深いお話もありました。また、皿回しの大道芸や童謡の会のみなさんと合唱するなど、大変バラエティーに富んでいて「しゃべり場」は、これまでの20年の歴史を振り返り、また新しい一歩を踏み出すために、みんなの気持ちが一体となりました。 スタッフ 白井 博

1月の展示コーナー

土曜アートサークル(月2回 土曜日午後活動。小学生・幼児対象)

市民交流スペース内の「展示コーナー」では、個人・団体の活動の紹介や作品展を行うことができます。申込み方法については、大和市民活動センターまでお問い合わせください。



当日、居合わせた6年生たち。このサークルも卒業らしい